

学校評価（後期）報告書



浜松市立相生小学校
令和5年3月

1 自己評価の結果

(1) 令和4年度学校教育目標

学校教育目標

風の子 太陽の子～ともに未来を創る～

① 学び合い：未来に向かって粘り強く学び合いともに成長する子

- 確かな学力を身に付ける（読み・書き・計算）
- 友達と伝え合い、自分の考えを深めることができる。
- 学ぶ意義を知る。
 - ・体育科を窓口として全教科に広がる資質・能力を育むための授業改善をする。
 - ・学びのサイクルを回す「相生スタンダード」を構築する。
 - ・話し合いや振り返りを行う際には、視点や場を充実させる。
 - ・ICTの活用を通して個に応じた指導をしたり学び合いの場を設定したりする。
 - ・「風の子・太陽の子のきまり」と「学習用具のきまり」を徹底する。
 - ・朝読書・朝学習の充実を図る。

② 認め合い：自他のよさを知り、認め合い高め合う子

- 自分のよさ・友達のよさがわかる。
- 善悪の判断をし、行動できる。
- いつでも誰に対してもあいさつができる。
- よりよい学級・学年・学校にするために働くことができる。
 - ・学級・学年内での子供同士の称揚の場を設ける。
 - ・学活、生活科、総合的な学習の時間において、自己のよさを振り返る時間を設ける。
 - ・あいおい12か条の周知と徹底をする。
 - ・生活の月めあての手立ての共通理解と徹底をする。
 - ・教師が挨拶の見本を示す。
 - ・学活や道徳科の授業等において挨拶の意義を学ぶ場を設ける。
 - ・委員会活動・係活動を通して、働くことのよさを味わわせ、自主性を育てる。
 - ・キャリアパスポートを活用し、自分を見つめる場を設ける。

③ 鍛え合い：心身ともに健康で、体力の向上を目指して鍛え合いあきらめずに挑戦し続ける子

- 体を動かす楽しさを味わい、進んで運動をする。
- 命を大切にし、自己管理ができる。
- 互いに周りの状況を見て安全に生活する。
 - ・体育的行事（リレー大会、新体力テスト、運動会、持久走大会）の充実を図る。
 - ・生き生きタイムを使ったスポーツ王や持久走練習、縄跳び検定を奨励する。
 - ・友達と仲良く外へ遊びに行くことや学級遊びをみんなで行うことを呼び掛ける。
 - ・清潔検査を実施し、生活習慣の徹底を図る。
 - ・保健週間をとおして、児童自身と家庭への啓発を行い、健康への関心を高める。
 - ・給食週間を通して、感謝する気持ちを高める。
 - ・心の日を設け、自己肯定感を高める取り組みを行う。
 - ・年4回の避難訓練を実施する。
 - ・交通安全を意識させる行事や委員会活動を設定する。
 - ・正しい廊下歩行を徹底する。

④ 支え合い

○家庭・地域と連携・協働し、ともに歩む学校

○心身ともに健康で、明るく元気な教職員がいる活力ある学校

・コミュニティスクール ・キャリア教育の推進 ・教育の情報化（GIGAスクール構想）

・家庭教育へのサポート ・働き方改革の推進

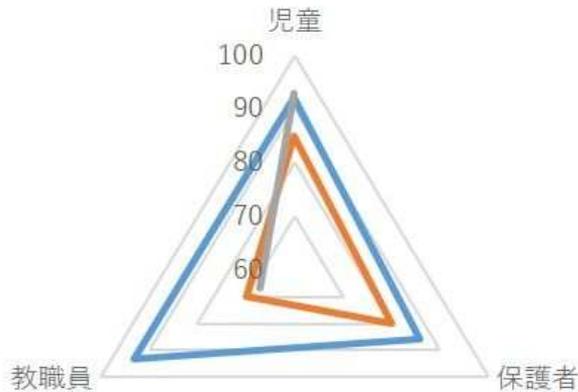
(2) 令和4年度学校評価アンケート(12月)

○集計 一覧

R4.12実施

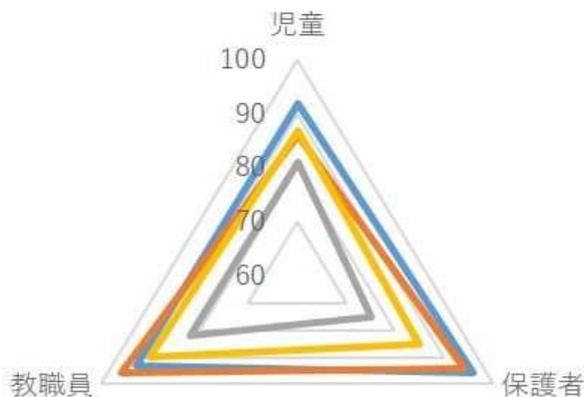
	児童	よく出来ている+大体できている(%)	保護者	よく出来ている+大体できている(%)	教職員	よく出来ている+大体できている(%)
未来に向かって粘り強く学び合い、ともに成長する子	授業で学習している内容がよく分かる	91.8	子供は、学校での授業の学習内容について理解している	86.4	子供が授業の学習内容を理解するような授業をしている	92.6
	授業において友達と意見を伝え合い、自分の考えを深めることができた	85	子供は、学校の授業を通して自分の考えを深めている	79.7	子供たちが仲間と意見を伝え合いながら、自分の考えを深められるような授業をしている	70.4
	何のために学習しているかが分かる	93.1			子供が学習する意義を知ることができるように手立てを講じている	88.9
			子供は、家庭学習に自ら進んで取り組んでいる	66.6		

— 確かな学力 — 伝え合い、考えを深める — 学ぶ意義



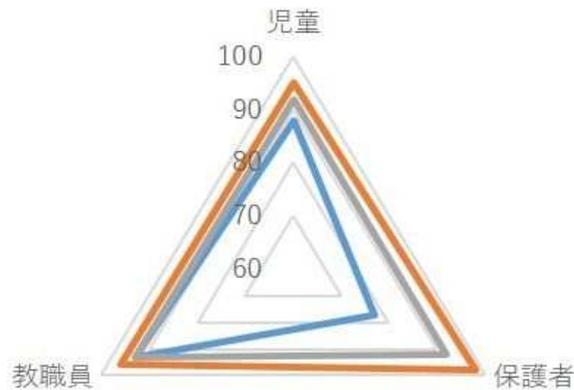
自他のよさを知り、認め合い高め合う子	自分のよさや友達のよさが分かる	92.2	子供は、自分や友達のよいところを認め、仲良く生活している	96.4	自分や友達のよいところを認め、仲良く生活できるような手立てを講じている	92.6
	よいことと悪いことを判断し行動することができる	86.1	子供は、よいことと悪いことを判断し、行動することができる	93.7	善悪を判断し、行動できるように手立てを講じている	96.3
	いつでもだれに対してもあいさつをすることができる	81.8	子供は、いつでもだれに対してもあいさつをしている	74.5	いつでもだれにでもあいさつができるような手立てを講じている	81.5
	よりよい学級・学年・学校にするために進んで働くことができる	87.4	子供は、人のために進んで働くことができる	85	よりよい学級・学年・学校にするために働くことができるような手立てを講じている	88.9

— 自他のよさを知る — 善悪の判断 — あいさつ — 進んで働く



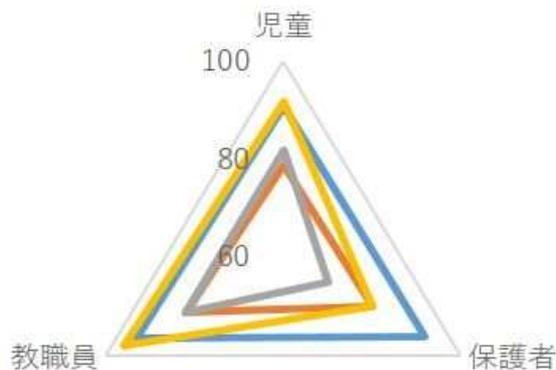
心身ともに健康で、体力の向上を目指して鍛え合い、あきらめずに挑戦し続ける子ども	体を動かすことが楽しく進んで運動している	88.1	子供は、体を動かすことが好きで、進んで運動している	77	体を動かす楽しさを味わい、進んで運動するような手立てを講じている	92.6
	自分や他人の命を大切にし、生活している	94.9	子供は、自分や他人の命を大切にしている	97.9	自分の命を大切にし、自己管理ができるような手立てを講じている	96.3
	周りの状況を見て安全に生活することができる	91.8	子供は、周りの状況を見て安全に生活している	92.3	互いに周りの状況を見て安全に生活できるような手立てを講じている	92.6

— 進んで運動 — 命を大切にする — 安全な生活



キャリア教育	相手の話をよく聞き、友達と協力して行動している。	91.4	子供は、相手の話をよく聞き、友達と協力して行動することができる。	91.7	子供が相手の話を聞き、友達と協力して行動できるような手だてを講じている。	92.6
	自分のよさに気付き、自信をもっている。	78.5	子供は、自分のよさに気付き、自信をもつことができる。	80.4	子供が自分のよさに気付き、自信をもつような手立てを講じている。	81.5
	失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦している。	81.9	子供は、失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦することができる。	70.4	子供が失敗を恐れず自分の考えた方法で繰り返し挑戦できるような手だてを講じている。	81.5
	夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学ぶことができる。	92.2	子供は、夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学んだりすることができる。	80.4	子供が夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学ぶことができるような手立てを講じている。	96.3

— 温 — 高 — 挑 — 夢



(3) 考察

学び合い(知)

未来に向かって粘り強く学び合い、
ともに成長する子

- ・ 確かな学力を身に付ける。
- ・ 友達と伝え合い、自分の考えを深めることができる。
- ・ 学ぶ意義を知る。

○確かな学力 児童 92% 保護者 86% 教職員 93%
知識・技能のみを身に付ける指導法ではなく、考える力を身に付けられる指導法の工夫改善を行う。

○伝え合い、考えを深める 児童 85% 保護者 80% 教職員 70%
授業中に、対話が生まれる場面を設定できるような授業構想を行う。発達段階にあった伝え合いの物差しを示すことができるようにする。対立を生む対話ではなく、折り合いをつけていくことも身に付けられるようにする。

○学ぶ意義 児童 93% 教職員 89%
単元構想を工夫し、子供たちが学びの実感を得、自分の成長に気付くことができるようにする。

○家庭学習 保護者 67%
家庭学習は、量の問題ではないこと、家庭で何をすべきかということを発達段階に応じて伝えていく。

認め合い(徳)

自他のよさを知り、認め合い高め合う子

- ・ 自分のよさ、友達のよさが分かる。
- ・ 善悪の判断をし、行動できる。
- ・ いつでもだれに対してもあいさつができる。
- ・ よりよい学校学年学級にするために働くことができる。

○自他のよさを知る 児童 92% 保護者 96% 教職員 93%
自他のよさは分かっているので、さらに深められるようにする。

○善悪の判断 児童 86% 保護者 94% 教職員 96%
善悪の判断はできている。しかし、規範意識が低く自己抑制ができていない子供も見られる。子供たちが善悪の判断をし、正しい行動ができるように指導していく。

○あいさつ 児童 81% 保護者 75% 教職員 82%
時と場に合ったあいさつ、会釈の指導をした結果、前期に比べると少し改善されている。しかし、自ら進んでのあいさつができる子供が少ない。あいさつの必要性を理解させる指導を行う。

○進んで働く 児童 87% 保護者 85% 教職員 90%
働く機会を設けることで、進んで働こうとする子供が多い。しかし、自分の特性を理解した上で仕事を選択することができない。また、やりがいを得る前にくじけてしまう子供もいる。主体性をもち、係や委員会の活動に取り組ませられるような手立てを行う。

鍛え合い部(体)

心身ともに健康で、体力の向上を目指して鍛え合い、あきらめずに挑戦し続ける子

- ・ 体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する。
- ・ 命を大切にし、自己管理ができる。
- ・ 互いに周りの状況を見て安全に生活する。

○進んで運動 児童 88% 保護者 77% 教職員 93%
学校で進んで運動する子供は他校に比べて多い。家庭での姿勢として外で健全に遊ぶ姿が少ない実態がある。学校からの家庭での運動、外遊びの働き掛けをしていく。

○命を大切にする 児童 95% 保護者 98% 教職員 96%
健康に関して意識が高く、感染症予防が徹底できている。また、「心の日」で子供が心を落ち着けて考える場、自分や友達を大切にしたい気持ちをもつ機会があるので、引き続き大切にに取り組んでいく。

○安全な生活 児童 92% 保護者 92% 教職員 93%
校内、登下校中のけがが減少してきた。校内のけがで、注意喚起により防げるけがもあるので、教職員で情報を共有し、子供たちの指導に生かしていく。

キャリア教育

自分の夢や目標をもち、夢や目標の実現に向けて努力することができる。

- ・ 温かくかかわる力
- ・ 自分を高める力
- ・ あきらめずに挑戦する力
- ・ 夢をもちつなげる力

○温かくかかわる力 児童 91% 保護者 92% 教職員 93%
○自分を高める力 児童 79% 保護者 80% 教職員 82%
○あきらめずに挑戦する力 児童 82% 保護者 70% 教職員 82%
○夢をもちつなげる力 児童 92% 保護者 80% 教職員 96%
「あきらめずに挑戦する力」が低い。単元構想を工夫するなどの授業改善を行い、子供たちの自己肯定感を高められるようにする。また、自信が持てない子供にもスモールステップで成長できるように教師が価値付けをしていく。

2 学校関係者評価

2月28日（火）に開催した学校関係者評価委員会（第4回学校運営協議会）において、自己評価結果及び考察について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・対話が生まれる授業展開をすることで、コミュニケーション力が高まるので、工夫をした授業構想ができるようにしてほしい。
- ・保護者の家庭学習への評価が低くなっているので、地域人材を有効に活用し、家庭学習を見てもらえるような仕組みを作ることができるとよい。
- ・挨拶の指導については保護者が主体である。子供は大人がしていることをよく見ている。大人が見本を見せることが大切である。コミュニケーション力を高める上でも、挨拶の重要性を伝えていく必要がある。
- ・保護者は体を動かし運動する評価が低くなっている。CSの活動の一環として保護者を巻き込んだ学校運営ができるようにしていきたい。
- ・失敗することも自分を成長させる上で、必要なことであることをキャリア教育の一環として伝えていく場が必要である。
- ・アンケートは一つの指標として考え、数字のみにとらわれるのではなく、教育活動の内容を重視してほしい。家庭教育の向上のためにも保護者・地域・学校が協力し合っていく必要がある。来年度からのコミュニティースクールをとおして、地域・家庭が学校を支えられる仕組みを構築していきたい。
- ・目に見えにくい発達障害についての理解を教職員一人一人が深められるようにしてほしい。発達支援教育の理念を根幹に据えた支援・指導を行うことが大切である。多様性を生かすことができる学校にしていけるようにしてほしい。

3 学校関係者評価を受けて

令和5年度
学校教育目標

『風の子 太陽の子～ともに未来を創る～』

目指す子供像

学び合い

なりたい自分に向かって粘り強く学び合い、ともに成長する子

認め合い

自他のよさを知り、認め合い高め合う子

認め合い

自他の良さを知り、認め合い、高め合う子

支え合い

- 家庭・地域と連携・協働し、ともに歩む学校
- 心身ともに健康で、明るく元気な教職員がいる活力ある学校
- ・コミュニティースクール ・キャリア教育の推進
- ・教育の情報化（GIGAスクール構想）

重点目標

【相生スタンダードを基に子供が学び方を知る】

- 考える力を身に付ける
- 友達と伝え合い、自分の考えを深めることができる。
- 学ぶ意義を知る。

- 自分のよさを知り、友達のよさが分かる。
- 自分で判断し、よいことを進んで行うことができる。
- よりよい学校・学年・学級にするために働くことができる。

- 体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する。
- 命を大切にし、自己管理ができる。